

## 県立新発田病院跡地活用市民検討委員会（第6回）会議録

と き 平成20年7月3日（木） 午後7時から  
ところ 新発田市生涯学習センター（多目的ホール）

### 1 開会

### 2 説明 本日の進め方について

（馬場会長）

本で行っていただきたいことは、前半1時間で、前回の検討委員会において各グループでまとめた「基本テーマの組み合わせ検討シート」（会議資料 ）についてグループ毎に発表していただきたい。後半1時間は、その発表した案に基づく整備イメージの検討を「整備イメージ検討シート（記載例）」（会議資料 ）を参考にグループで検討して欲しい。

整備イメージの検討については、お配りした記載例を参考に作成して欲しい。それでは説明をする。

この記載例は A グループ優先順位3「行政サービス」が組み合わせられている案を基に作成している。何故、この案を記載例にしたか。その理由は皆さんが今まで検討を重ねてきた「基本テーマの課題等検証シート」（会議資料 ）で挙げたメリット・デメリットをある程度キチンと「基本テーマの組み合わせ検討シート」から引用した条件を付していたからである。

つまり、「基本テーマの課題等検証シート」で挙げたメリット・デメリットは「基本テーマの組み合わせ検討シート」に挙げる条件（目的）となり、そこからその条件（目的）を満たすことのできる機能を考えていくと、自然と必要な施設のイメージが共有される。そういった一連のつながりがある。

従って、前半行っていただくグループ発表においては、各グループが考えた基本テーマの組み合わせ案に付した条件が、「基本テーマの課題等検証シート」のどのメリット・デメリットから引き出したのか分かるように説明をお願いしたいと思っている。

具体的に記載例では、記載例中、左側、「【基礎テーマ「緑化」について】の欄に「防犯についても考えた…」という記載がある。この記載内容は「基本テーマの組み合わせ検討シート」から引用した内容だが、この背景には「基本テーマの課題等検証シート（総まとめ）」中、「緑化」の「市民にとってのデメリット」欄に「防犯性・安全性の問題」というデメリットを解消するために…という関連性が推測できる。記載例ではその関連性を分かりやすくするために「防犯についても考えた植林方法で整備すること（防犯性・安全性の問題の解決）」とさせていただいた。

この条件（目的）を受けて、必要な機能は何かを考える。すると、「夜間の安全・防

犯のための照明」とか「見通しの良い植林」が必要ということになる。すると、施設としては「適切な配置による夜間照明」であるとか「『森』というイメージよりは『植栽』という見通しの良い緑」というものが想定されると思う。

この「整備イメージ検討シート」は最終的にどんな施設をイメージするのかということの導きやすくするためのシートであると認識してもらいたい。

再度、説明させていただくが、我々が進めてきている作業は全てつながりがあり、「基本テーマの課題等検証シート」「基本テーマの組み合わせ検討シート」「整備イメージ検討シート」と段階を踏んで積み上げているということを認識していただきたい。

なお、「整備イメージ検討シート」は、これから各グループから発表していただく「基本テーマの組み合わせ検討シート」にそれぞれ対応して組み合わせ案1つに対して1つの整備イメージというように検討していただきたい。

これから発表を開始するが、先に述べた関連性に留意しながら発表していただく。組み合わせ案の中には、その関連性が明示的に示されておらずさらには基本テーマの課題等検討シートからは説明できないということもあるかも知れない。

例えば、Aグループ優先順位1の緑化の条件として「あやめ、桜等、植える花や木を選ぶこと」とあって、私は一瞬違和感を覚えた。しかし良く見ると、「基本テーマの課題等検証シート」中、「緑化」の「市民以外にも及ぶメリット」の中で「『市の花（あやめ・花菖蒲）』を通じて...」、「...あやめを植える」というものがあって、ここから引用したのだと認識している。しかし、「桜」について課題等検証シートに載っておらずこのことについては説明がない。そうした不足する説明をこの発表及び質疑応答の中で埋めていってもらいたいと考えている。

また、組み合わせ案の図（円と円の重なり合い、その大きさの違い等）の説明で足りていない箇所についても同様に説明をいただきたいと考えている。

それでは、変則的だが、組み合わせ案が一つだけになっているCグループから発表をお願いしたい。

### 3 基本テーマの組み合わせ検討（全体会）

- ・ 基本テーマの課題（メリット・デメリット）との確認

#### Cグループ

##### （B委員）

優先順位1と書いてあるが、時間が足りず組み合わせ案は一つだけとなった。

私達のグループでは、維持管理費・コストを考慮した「緑化」の上に、「防災」「賑わい創出」「歴史・文化」を同じ大ききで組み合わせた。

「防災」に関しては、避難場所や水害・火災・地震等発生時に対応できるようにするという。他には当該地に隣接する自衛隊との連携を視野に入れた活用。通常時は緑地あるいは駐車場としておく。それから、毛布や食糧の備蓄をしておく。これらを考えるべき条件とした。

次に、3つの付帯テーマが重なり合っているところは「行政サービス」である。最初は広い意味で捉えていたが、議論を重ねていくうちに、ここでは3つの付帯テーマに限定して関連する「行政サービス」として、例えば、建物が建つとすれば当該地全体を管理する管理面での「行政サービス」としてみてはどうかという議論があった。

「歴史・文化」だが、歴史文化を知る・紹介することが、観光、郷土愛につながるであるとか、生涯学習的なものにつなげることで学びの場の創出することができるだろうということを考えてみた。なお、ここでは生涯学習の生涯を括弧書きにしているが、この意図はその下に記載した「過去の文化（歴史）だけでなく、現代の文化も扱う」ということから、現代の文化についても扱いながら、新発田出身の芸術家を紹介することや若者の表現の場とすることも重要との考えからである。

次に、「歴史・文化」と「賑わい創出」の重なり合った部分であるが、この2つのテーマを満たす何かを経費を掛けて造ったとしても、入ってくるお金がなければ維持管理費を垂れ流すことになるというのはいけないのではないかという考えが基本にある。

その考えも含め「賑わい創出」であるが、採算性が重要であり、基本的にはお金のとれる「賑わい創出」とすべきとの意見となった。イベント開催、物販、飲食、タイアップ企画などがそうである。また、せっかくそうした場所や機会を設けても、サイン、看板、誘導が上手く機能しないと来る人も来ないだろうとの考えから、それらを充実させていく必要があるとの意見もあった。なお、「イベント開催、観光、物販、飲食に関する運営主体は様々なものを想定」との記載があるが、これは極力行政を頼らず、民間で何かすべきという意味を込めたものである。

##### （馬場会長）

それでは、今の発表を聞いて他グループの委員の皆さんから「この条件は課題等検討シートのどの部分から引用したのか。」などの質問等はないか。

(H 委員)

今発表された組み合わせ案には5つの付帯テーマ全てが入っている。時間の問題にもよると思うが、他に付帯テーマを全ては含まない組み合わせ案は検討されなかったのか。例えば付帯テーマ「防災」と「歴史・文化」のみであるとか…。

(B 委員)

委員私案の段階ではそういった案もあった。議論していく中で、この形となった。

(H 委員)

付帯テーマが全て入っている案の方がまとまりやすい。そうした形が今の結果となっているということはないか。

(B 委員)

前回は時間を延長して議論したが、その中で一旦外れたのは「行政サービス」であった。しかし、当該地に関しては管理部門に限定した行政サービスとすれば可能性はあるとの考えからこの形となった。

(I 委員)

2つ質問がある。

1つは、「行政サービス」についてだが「基本テーマの課題等検証シート」中、「行政サービス」の「市民にとってのメリット」を見ると「集約できて便利」とか「市民の利便性の向上」となっている。そうすると、管理面での行政サービスという位置づけは少し遠いのではないか。少し無理をしたというか、捨てるのが難しいという感から「行政サービス」を入れたように見える。

2つ目は、「防災」と「賑わい創出」の重なっている部分があるが、そこの説明をしていただきたい。私のグループでは「防災」の重ね合わせ方が難しかったのだが、Cグループの考えた重なり部分の説明をしていただきたい。

(B 委員)

「防災」は主に通常時駐車場スペースと建物スペースを想定しているが、重ならない部分は駐車場、「歴史・文化」ならびに「賑わい創出」との重なり部分は建物を想定している。つまり、「賑わい創出」との重なり部分はいざという時の屋内避難所を想定している。

(馬場会長)

今の説明で何となくイメージが沸きつつあるが、ここで質問。「防災」と「賑わい創

出」の重なり部分については基本的には自由に使える建物を想定しているということか。イベント会場的なもの。災害時等に即利用できるのであれば、仕切りは少なく、広いスペースを確保したもの。そうしたものを想定しているのか確認したい。

あるいは、ここは駐車場であるとしてしまえば、もっと分かりやすい。「賑わい創出」と「防災」の重なり部分以外の「賑わい創出」部分は建物だが、この重なり部分は「賑わい創出」に来た人のための駐車場であって、平時は駐車場、非常時はテント等設置スペースとしてしまえばより分かりやすいと思うが、いかがか。

(B 委員)

その件については、私と同じグループの他委員から説明の補助を願いたい。

(J 委員)

「賑わい創出」はおっしゃるとおり、屋外、屋内、ともにあるものとして想定している。私の私案の段階では、「賑わい創出」は施設ありきではなく、過去の文化だけでなく、現代の文化も扱う「歴史・文化」施設の中にあったり、屋外であったり...という臨機応変なものとして捉えている。

それから、「行政サービス」だが、これは話をしているうちにやはり必要だろうとことから3つの重なり部分に少し加えたという経緯がある。

(馬場会長)

理解した。そうすると、更に言えば「3つに関連する行政サービス(主に管理面)」と記載があるが、果たして「課題等検討シート」から引用できるものかどうかということが焦点になると思われる。こうした機能が必要だということは言えても、それがすなわち「行政サービス」と成りえるものかどうか。いかがか。

(H 委員)

そうすると、もしかすれば、「歴史・文化」に「生涯学習」が含まれているが、同様に「賑わい創出」も「歴史・文化」に含まれる形になるのではないかとも思われるが...

(J 委員)

私の説明不足もあったかも知れないが、グループ討議ではやはり「賑わい創出」はそのボリュームにせよ、他テーマとの関わり方にせよ、大きな円で他テーマとは別の部分があるという解釈から、お手元の資料のとおり位置づけたと覚えている。

( B 委員 )

あくまで4人で議論した際には、念頭には余りコストを掛けないということを基本としていたと認識している。私も話したが、先にも説明したが、「緑化」一つにしても採算の見込める「緑化」とすること。そうした考えからすれば「賑わい創出」が持つ役割というのは非常に大きいというイメージでいる。一言で「賑わい創出」といっても、その方法は様々あると思うが、イベントを開催して人が集まる、外貨を取れる等を考慮した時、そのボリュームは大きいものと捉えているため、この組み合わせ案の形でいきたいと考えている。

( N 委員 )

私もCグループだが、前回の会議は所要で欠席させていただいた。前々回の課題等検証作業の時には、Cグループでは「行政サービス」の「市民以外にも及ぶメリット」として「観光も含めた行政サービスのモデルとして他市住民が来訪する可能性あり」ということで意見が一致している。その時点では、管理面という認識での議論はなかったように覚えているが…。恐らく私が欠席した前回から議論されたこととは思うが…。

( B 委員 )

前回でも最後まで議論されたポイントであった。確かに管理面という議論は前回から初めて浮上したと認識している。確かにそう言われると課題等検証時のメリット・デメリットから少し逸脱しているようにも感じている。

しかしながら、「行政サービス」というのを、広い意味で捉え、その必要性を強く感じているので、順序は逆だがメリット・デメリットに今から加えていただきたいとも考える。

( J 委員 )

細かい話になるが、例えば「歴史・文化」、観光などの目的で来た方達を案内するような役割、「賑わい創出」をするにあたっての主体として管理するという役割、「防災」に関して統制を図る役割、それらが当然必要になるということから、前回からはじめて“管理”という言葉が生まれた。そういうことから考えればメリット・デメリットでいうところの「観光も含めた行政サービスのモデル…」という一面もある。そのように理解していただきたい。

( N 委員 )

総合案内のような役割を持つということで理解した。

(馬場会長)

そういう意味合いで解釈することに意義はないか。

(H委員)

私達のグループでは「行政サービス」というイメージ、定義というものを第1回検討委員会で配布された市の庁内検討会報告書にある定義、すなわち「市民の利便性を考慮し...1か所で用事を済ませることのできるような...」というところに定義を定め議論してきた。そういった捉え方が変わらないかが心配だが...。我々からこの検討報告をのちに発信するわけだが、受け手となる他市民が混乱しかねないのでは...

(馬場会長)

そういったご意見からすれば、Cグループはこの面に限り少し逸脱しているのではないかということだが...。Cグループはいかがか。

(B委員)

定義というところまでは考えていなかったかも知れない。

(J委員)

私も定義というところまでは考えていなかった。しかし、「行政サービス」とするにしても一部分になるだろうという捉え方でいたので、結果として重なり合わせた部分には、そういった機能が必要とは考えるものの、取り立てて「行政サービス」というテーマを表に出すほどのボリュームでは受け止めていないことを理解して欲しい。従って「行政サービス」という表現が混乱を招くのであれば、そうした管理機能は必要だが、「行政サービス」という表現は除くということでも良いと思っている。

(馬場会長)

確かに今のご説明のとおり「行政サービス」というテーマを前面に打ち出しているわけではない。従って、この「3つに関連する行政サービス(主に管理面)」という表現を「3つに関連する管理機能が必要となる」とすれば良いと思う。これによろしいか。

(異議なし)

それでは、この組み合わせ案に基づき、先に説明した手順に沿って整備イメージの検討を行っていただきたいと思う。

## Bグループ

(E委員)

Bグループでは優先順位1から3まで検討してみた。はじめに優先順位1と2について説明させていただきたい。

優先順位1と2の違いは「生涯学習」の位置と「行政サービス」の有無。それ以外は共通している。「行政サービス」は最後まで入れるべきかどうか悩んだところであって、一つは入れて、一つは入れない場合として案を作成してみたと理解していただきたい。「生涯学習」の位置については、むしろ発表の際に委員の皆さんにお聞きしてみたいと考えている。

はじめに、グループで一致した部分は「賑わい創出」と「歴史・文化」を中核としたいということ。その兼ね合いは色々意見があったが、「賑わい創出」については、先ほどのCグループの発表にもあったとおり、コスト面を考慮するうえで「コストを掛けないあるいは掛けても回収できる」ということが前提にあったために、外せないテーマであるということで一致した。

「賑わい創出」では、人が来なければ回収どころではないので、基本的にはイベント開催ができるようにすること。しかしながら、近隣住民への配慮や公共交通機関等のアクセス向上が必要であるとの意見があった。イベント開催については、特に当該地に関連させる必要がないとする意見と、当該地だからこそお城等に関連するイベントのみとする意見が両論あったが、前者の意見の場合、例えば遊園地などのようにとにかく人が集まればそれで良いということになりかねない不安があるとのことから、結果として「歴史・文化と無関係(何でも良い)なイベントは排除」とさせていただいた。一方で「歴史・文化」を踏まえたいうえで新しい「歴史・文化」という発想であれば、少しミスマッチでもやってみようということも許容するものとして考えている。

「イベントに限らず、ただ公園として自由に見ることも良い」というのは、イベントを無理に開催しなくても、風情や雰囲気味わって訪れたいような場所にしても良いのではないかという意見からである。例えば、あやめの植栽などがそれであり、日本一の「あやめ城」にするなどの意見もあった。

「歴史・文化」に関しては、伝承を取り入れること、今ある資源を大切にす、他史跡等との連携、武家屋敷やまちなかにある蔵であるとか、そういったものが壊されていくのであれば移築するなどして活用しても良いのではないかという意見もあった。ただし、どうしてもコスト面を考慮しなければならないので、「費用対効果を考慮し市民の理解を得られるものとする」としている。また、お金を掛けて、ただそこにあるだけでは仕方がないので、堅苦しくなく親しみ易い、現代の人も身近に感じることのできるものとするべきという意見があった。

これら2つの兼ね合いは皆さんにお伺いするものとして、以上が大きな要素である。

「歴史・文化」の中の「防災」についてであるが、「防災」はその土地柄から「歴史・

文化を損ねることのないようにすること」という意見と、課題等検証シートから「市民に及ぶデメリット」として「防災だけではもったいない(通常時の有効性)」という意見から「日常時・非常時ともに有効利用すること」という条件を付けさせていただいた。「歴史・文化」を踏まえた「防災」のイメージとしては水害を未然に防ぐための調整池や災害時の水の確保ができる役割としてのお堀。米蔵を移築したのであれば、そこを非常食等の備蓄庫にするなどして活用していけば先進事例のモデルともなりうるのではないかとの考えからである。仮設住宅用地としての緑地については、実際に仮設住宅を建設しようとする、せっかく張った芝生等を剥がさなくてはいけなくなるだろうとの意見から、仮設住宅用地とはせず避難所にとどめておく。

「生涯学習」については「他施設との重複に気を付けること」ということで、課題等検証シートの「生涯学習」の「市民にとってのメリット」にもあるが、「学生の様々な実践の場(農業高校の販売など)」であるとか、伝統工芸を学んだ学生が販売してみるとか、チャレンジの場として捉えてみても良いのではないかとの意見があった。「賑わい創出」の面から見れば、飲食店などを開いてみたいと思う人達が実際にやることのできるチャレンジショップのようなもの。四季折々に合わせ何店舗か入れ替わりでやってみるとか…。そういう「生涯学習」でも良いのではないかという意見もあった。

以上が優先順位1である。

優先順位2は今話した内容に「行政サービス」を入れるか否かの議論があり、多数の意見で入れるべきではないという意見が大半を占めたが、他市民の意見もあるだろうという観点から入れてみたという経緯がある。

ただし、「行政サービス」というものを入れるにしても、その役割なり条件によって限定するという形(例えば「歴史にそぐわない建物は建てない」)で、しかも今ある行政システムを見直し再構築すること(例えば「観光案内、総合案内の役割を果たすもの」)も併せてできるようにすることが必要不可欠であると考えている。総じて歴史を活かした行政を実現して欲しいという思いから、このような案を作成してみた。

(C委員)

優先順位3であるが、優先順位1・2に比べ、テーマを更に絞り込んだ案を作成した方が良いのではないかとの思いから作成している。考え方としては「緑化」したうえで「歴史・文化」を踏まえたイベント(「賑わい創出」)開催地ということである。

「賑わい創出」の条件に「歴史・文化とは別個」とあるが、「歴史・文化」に関連したイベントだけではなくて、関連性のないイベントであったとしても集客が見込めるものであれば良い、そういう部分も少しはあるのではないかという意見である。次に「イベントに特化も可」とあるが、これは「緑化」と「賑わい創出」につながるこ

であって、むしろ「緑化」の条件として「イベント（花祭り・緑化祭）が開催できるほどの『緑化（公園）』とする」ということを表現したかったものである。品種は出来るだけ統一して特色ある「緑化」を目指した公園というイメージである。

同様に「歴史・文化」を踏まえて、市の木や花である桜・あやめに特化した一体感のある整備をすべきとの意見からこのとおりとさせていただいた。

「防災」については取り立てて記載していないが、非常時の際には、その公園を避難所にしていただくということも含めた案であると解釈していただきたい。

（馬場会長）

それでは、他グループ委員からご質問をお尋ねする。いかがか。

（I委員）

優先順位3であるが、「緑化」と「賑わい創出」のみでも良いのではないか。「歴史・文化」の中には他の条件はあるのか。主に「緑化」を用いた「賑わい創出」のような印象を受けたが…。

（C委員）

その方が分かり良くなるようであれば、それでも良いと思われる。

（E委員）

ここでは、あやめ・桜等に特化した整備をイメージしているので、その意味では「歴史・文化」というテーマを組み合わせの方が良いと認識している。例えば、雪囲いコンテストであるとか、あやめ・桜コンテストであるとか、四季折々の新発田らしさを踏まえた催しを通じて賑わいを生み出せたら良いという思いから、この組み合わせ案とさせていただいたと考えている。基本は「緑化」だが、「賑わい創出」するにしても「歴史・文化」を踏まえたものという意味合いがある。

（馬場会長）

そうすると、この図でいう二つの円が全く同一に重なっており、「賑わい創出プラス歴史・文化」という記載の方が理解しやすいと思われる。ただし、その条件を細かい条件を付して更に詳しく記載するという事で済ました方が良いでしょう。

（E委員）

考え方はその通り。私達Bグループでもその位置関係で悩んでいたもので、むしろ2つのテーマが極めてほぼ同一になるという形で修正した方が良いでしょう。このことは同様に優先順位1・2にも言えるので、そうした観点で再度ご意見を頂戴したい。

(H委員)

優先順位2の「行政サービス」について、再度ご説明願う。例えば「民間企業が対応しきれない部分を行政がカバー」という条件について。

(E委員)

例えば、ある方が開業するにしても、一般的には土地を求めお金を掛けて開業することになると思われる。ここでは、そうした準備負担を軽減する意味で、その土地の優位性を活かしつつ、行政側のサポートをいただきながら、チャレンジしてみる機会を与える場とするようなこと。あるいは市民主体による運営に伴い、ボランティアを集う方法であるとか、広報紙の活用であるとか、ノウハウ提供やコーディネート支援であるとか...そういった支援をイメージしている。それらも踏まえて「市民サービス向上システムの再構築」という位置づけで「行政サービス」としての総合案内のようなものをイメージしている。

(馬場会長)

そうすると、Cグループの管理面における「行政サービス」という議論に似通っていると解釈する。そうすると、Cグループ同様、課題等検証シート(メリット・デメリット)からは引用できないということになると思われる。従って、優先順位1の方が分かり易いと考え。ただし、その時にその旨「管理機能が必要」ということを「整備イメージ検討シート」を作成する際に記載していただくということが重要になってくると思う。

あるいは、優先順位2を残すにしても「行政サービス」の大きさを、その条件(目的)等を考慮したうえで小さく表現するか。

いずれかの形になると思われる。よろしいか。

(異議なし)

## Aグループ

(L委員)

Aグループ優先順位1について説明する。

Aグループでは、新発田市民としてアイデンティティを持てるようにする、ふるさとに誇りを持てるようにすることを全体と通した目的に、新発田らしさとして「歴史・文化」、次に活気がないといけないという思いから「賑わい創出」といった2つを核にテーマを組み合わせた。

「緑化」については「年齢を問わず、市民、来街者へ安らぎや憩いを与えるものとする」とが基本になっている。

「歴史・文化」において「本丸と一体的な活用をすること」という条件はあるが、そのことは「緑化」における「あやめ、桜等…」という条件にも通じるものである。

「賑わい創出」には「歴史・文化」と関係性のあることが多くあると思うが、例えば、二の丸で藩主が台輪をご覧になったという記録もあることから、新発田祭りとは異なる時期に、当該地で台輪の一斉あおりを見ることができるとか、大名行列のようなイベントをしてみるという案も出た。一方、全く関係のない（例えばコンサートなど）ものも実施してみても良いだろうという案も出た。

「防災」については、緊急時において「避難先に限定すること（仮設住宅用地とはしないこと）」を条件にしている。

「生涯学習」については、他の施設と重複しないことを念頭におき、例えば道学堂の精神を受け継ぐようなもの、歴史文化との兼ね合いから「城下町らしい生涯学習」に行い、結果として「賑わい創出」にもつながっていくことも期待できるものにしていければと思っている。

「行政サービス」だが、他グループの発表を聞いて、もっと小さな円にしても良いのかも知れないなあとも思っている。

「歴史・文化」に「本丸と一体的な活用をすること」「複合利用であること」と記載があるが、このことは「歴史・文化」にかかる条件というよりも、この優先順位1案全体にかかる条件という意味合いからである。そうした場合、ここでいう「行政サービス」は「複合利用」という条件に含まれるものであり、管理面における位置づけを視野に入れて置いたものであるため、もう少し小さな円となるものと思われる。

続けて優先順位2についてだが、やはり「歴史・文化」を大事にしていくというものである。同時に「賑わい創出」も重要であり、これらを活用して新発田城を観光のスタート地点と位置づけ、「歴史・文化」と一体となって賑わいを生み出していきたいという案である。

「生涯学習」については、この2つのテーマに準じており、「新発田の歴史・文化を学ぶことにより、市民としての自信と誇りを持つことができるようにすること」を大事な条件（目的）としている。

以上3つのテーマの組み合わせについてはグループで共通していたが、「防災」についてはもう少し「歴史・文化」を取り入れた「防災」となるよう工夫が必要であるという結論に至っている。

「行政サービス」については優先順位2では入れないこととしているが、これが優先順位1との一番の違いである。

（H委員）

それでは、優先順位3について説明する。

理念としては“城下町の安心・安全なまちづくり”。

これは当該地がお城の前にあるということにちなんで「歴史・文化」施設をつくるということで「...できるだけ正統なものであること」を条件として、昔からここにあったものであり、なかったものを無理して造るということではない。そして「文化には芸術を含むこと」としているが、落谷虹児記念館も近くにあるということから芸術を含むこととしたい。

「防災」については、「建築物（建造物）はなるべく造らない」という条件にしており、他市事例としては千葉県市川市に防災公園というものがあり、ベンチが災害時にはかまどに転用できる、非常用便槽が設置できるマンホールを設置しているなどの工夫がされており、普段は公園として利用するが、災害時には防災拠点になりえる公園をイメージしている。

（Ⅰ委員）

同順位3のもう一つの案について説明する。

先にH委員から説明のあった案と一つにできないかとも考えたが、この案では「行政サービス」が大きな円としていることから、一つにはしないこととした。

例え話で“良いサッカーチームは、メンバー一人一人が考えることのできるチームである”という話があるが、同様に良いまちは市民一人一人が自分のまちについて考えることのできるまちであるということが必要だと思っている。そういう姿勢が大切である。その実現のため、この案では「行政サービス」というテーマを組み合わせている。

「行政サービス」とは、いわゆる市役所を想定しているのではなく、市民プラザとも少し違う。景観条例による高さ制限があるので、大きな施設ではなく、市民サービス（パスポート等各種申請、社会福祉等相談）窓口を有しておきながら、その手続きに出向いた際には、来訪者が少しゆっくりしながら、他の来訪者とともに市政について話ができるような雰囲気のある建物・空間であって欲しい。そしてお城も近いことから新発田の歴史文化を学ぶことのできる、自分達のルーツを探せるような建物を想定している。

「防災」では、広いホールを転用して一時的に非難に活用。災害時以外では、そこに市で所蔵している美術品の展示や企画展の開催などが行えるようにする。

全体としては記載のとおり「新発田市民であることが誇りであり、どう考え合ったら今の暮らしが良くなるか考え合えるような空間を創造」できる施設とすることをテーマにおいて考えた案である。

（馬場会長）

それでは、今の4つの案について質問を受け付ける。

( N 委員 )

H 委員から説明のあった優先順位 3 について質問する。

「防災」において、「緑化部は多用途とすること(砂利敷)」とあるが、この砂利敷については今まで議論がなかったのではないか。

( H 委員 )

課題等検証シートの「緑化」、「市民にとってのデメリット」において「緑化と防災だけでは永遠にランニングコストがかかるだけ」という意見がある。このランニングコストというのを維持管理費という意味で捉えているため、仮に芝生整備を行った場合お金がかかるという意見もあったことから、イメージとしては皇居前の広場のような考え方で案を作成した。緑化部分とその他大部分は多用途とできるよう砂利敷とする。そうした経緯がある。

( 馬場会長 )

維持管理等コストから考慮して考えたということである。他には。

( C 委員 )

I 委員が説明した優先順位 3 について質問する。

幾つか機能があると思うが、市民が集まってまちづくりについて考える場所が欲しいという案と解釈しているが、場所は他にもあるのではないか。例えば、駅前商店街の喫茶店であるとか…。そういう目的であれば他の場所でも良いのではないか。

( I 委員 )

場所についてはAグループでも議論があったが、イメージとしては最初に訪れる目的は窓口での用事であって、手続きが済んだらすぐに帰るのではなく、その手続きを行うことで頭の中が行政に向いていることをキッカケとするというか…。そこで「最近の新発田ってさぁ…」という感じで不特定多数の市民が会話をするというか…。具体的にどのようにすればそうなるのか難しいとは思いますが、展示物があったりすればそうなるのか…。考え合うというのは二次的だが、やはり最初は手続きがあって…というのがポイントになるかと思う。

( C 委員 )

市役所で考えてみてもなかなか難しい感は否めないが、イメージは分かった。

( 馬場会長 )

恐らく、今の説明の根拠として引用できるのは課題等検証シートの「行政サービス」

「市民以外にも及ぶメリット」の中で「観光も含めた行政サービスのモデルとして…」というのがそれに当たるかどうかだろうと思う。そこまで拡大解釈できるかどうか焦点になると思う。皆さんはどう捉えるか。

( I 委員 )

私達が考えるうえでは、庁内検討会の検討結果において「市民のための土地」というものがあつたので、その考え方を念頭に置けば、その引用が果たしてどうかとも思っている。

( 馬場会長 )

今のご意見も踏まえ他委員はどうか。

( E 委員 )

例えば、お年寄りが来訪され、世間話や市政に関する話をする場、それが市の窓口のそばにあればそれが一番だと思う。それがお年寄りでなく若者であっても悩んでいる人であっても良いが、その答えを出せる窓口が近くにあれば確かにメリットであると思う。もしかすると、今現在まとめられているメリット・デメリットが足りていないのかも知れないとも思う。

( 馬場会長 )

では、更に“あの場所”という捉え方で考えた時にはどうか。

( I 委員 )

それも実は重要な要素であつて、新発田の誇りやルーツであるお城のそばに整備することも重要であると考えている。

( 馬場会長 )

そうすると、あの場所である必然性があると考えているということだがどうか。  
Aグループの他の委員はどうか。

( H 委員 )

本日配布された「整備イメージ検討シート」の記載例にもあるが、結果として「市民が交流できる会議室やゆったりできる広いロビーを有した窓口集約施設」とあるが、私もそのようなイメージで解釈している。

問題は市民としての誇り・アイデンティティーを考えるうえで、あの場所がお城のそばにあつて、元々政事(まつりごと)をするものがあそこにあつたということ、ま

ちの真ん中であって...ということも確かに否めないと認識している。そういった意味で言えば、会長の指摘にあった「観光も含めた行政サービスのモデルとして...」という「市民以外にも及ぶメリット」として私は汲み取れるものとする。

(馬場会長)

今のご意見のとおり、課題等検証シートの「行政サービス」「市民にとってのメリット」にある「(窓口サービス等)書類提出手続が必要なものを一箇所に集約した方が便利」というところから少し広がっている内容と思う。このことについて委員の皆さんが良しとするかどうか。窓口サービスに限定するべきか否かについて再度伺う。いかがか。

(E委員)

限定するかどうかということより、そのイメージが沸くかどうかということが重要と思う。「観光も含めた行政サービスのモデルとして...」という雰囲気を出せる施設、市の職員、それらが必要になると思われるが...

(馬場会長)

そうであれば、このAグループ優先順位3「行政サービス」を含む案についてのみそういうイメージであるという検討委員会の検討結果が、他市民の理解を得られるものになっていけば良いが、そうでなければ窓口サービスという要素の意味合いでの「行政サービス」とするしかないように思うが、いかがか。

(H委員)

Cグループの案の発表の際にも通ずることだが、今議論のあった内容について理解していただくには少し厳しいかも知れない。イメージの部分は枝葉の部分であって、やはり幹の部分は窓口サービスに拠るほか無いように感じている。

(B委員)

今のご意見のとおり、最初は窓口サービス機能に限定していった方が良いと思う。そもそもの目的はそこにあるのだから。二次的な効果まで及ぶことは期待していきたいが、まずは目的をしっかりとった方が良いと思う。夢や期待の部分は共感できるが、現実的には職員をそこに配置すること自体でお金も掛かれば、果たして期待通りに市民が交流を深めるかどうか...

(I委員)

市役所という話は出てきてはいないが、私のイメージとしては市役所の半分という

イメージでもある。市民と直接的に触れない部分は別の場所にあって、触れる部分がそこにある。従って、そのために敢えて経費を掛けて新設するのではなくて、あるものを動かして、そうした雰囲気をつくりあげるといふか…。ある意味においては市役所の老朽化問題の解消という一面もクリアできるのかとも思っている。

(H委員)

まちの中の商店街振興と観光振興、空き店舗の活用をねらって「まちの駅」があるという事例と似た感覚でもあるのかとも解釈している。

(N委員)

そうであれば「まちの駅」もあれば「たまり駅」もあるので、何も表門の前になくても良いとも思われるが…。敢えてそのために当該地に施設を設ける必要性はやはり無いのではないかと思う。

(H委員)

それは具体的な施設の整備イメージにまで及んだ話についてであって、そもそもは「窓口サービス」で押すか、それとも「観光も含めた行政サービス」で押すかの議論から考えてどうなのかという視点で議論するべき。そうした時にどうなるかだと思う。

(馬場会長)

確かにその論点で議論するうえでは、課題等検証シートの「行政サービス」「市民以外にも及ぶメリット」の中で「観光も含めた行政サービス」及び「観光(城の前だから)」という意見により、今の点について正当性はある意味で認められると思うが、窓口サービス以上のものをもって認められるものとなるかどうかはやはり焦点になると思われる。窓口サービスは認められるものの、それ以外の部分はN委員のおっしゃるとおり、別の場所でも可能ではないかというご意見もあることを考慮すると果たしてどうなのかという議論になると思われるが…。

(H委員)

確かにそうであれば、この案の大きな目的は窓口サービスの部分から大きくはみ出ているように感じる。

(I委員)

了解した。そうであれば、この案の「基本テーマの組み合わせ検討シート」中に記載した「新発田市民であることが誇りであり、どう考え合ったら…」という内容を削除し窓口サービスに目的を限定した「行政サービス」とした方が分かりやすいのか

も知れないと感じている。

(馬場会長)

今の議論については「基本テーマの組み合わせ検討シート」からは削除するものの、その背景には議論の経過を議事録で残すことをご理解していただく。

(異議なし)

それでは、今各グループから発表・意見交換を交わした内容に留意しながら、冒頭説明させていただいた「基本テーマの課題等検証シート 基本テーマの組み合わせ検討シート 整備イメージ検討シート」というつながりをより分かるように、次回「整備イメージ検討シート」を記載例を参考として各班で作成していただきたい。基本的には「基本テーマの組み合わせ検討シート」一枚について「整備イメージ検討シート」一枚になると思われる。ただし、幾つかの施設が想定されることもあるかも知れない。その場合は、組み合わせ案に対し整備イメージを2案までを上限として検討していただきたい。

次週は前半で整備イメージ検討をグループ討議でまとめあげ、後半、全体会形式で各グループの整備イメージを発表ののち、意見交換を重ね、その案の妥当性等を検証していきたい。

#### 4 整備イメージの検討(グループ意見交換)

(次回に延期)

#### 5 閉会